

**日本看護科学学会 COI 開示**

**筆頭者氏名 脇本 寛子**

**所属名 名古屋市立大学看護学部**

- ・筆頭演者は日本看護科学学会へのCOI自己申告を完了しています。**

**演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体等はありません。**

2017.12.17 第37回 日本看護科学学会(仙台)

**GBS保菌妊産褥婦へのケアの現状と課題(第一報)**  
**—GBS保菌妊婦が疑問, 不安, 心配に思っていること—**

**名古屋市立大学看護学部 脇本寛子, 矢野久子**

**会員外共同研究者:**

**名古屋市立西部医療センター看護部 熊谷千景, 山川美奈子**

科学研究費・基盤研究(C)・課題番号26463420の助成を受けて実施

# 背景

- 妊婦における**Group B *Streptococcus* (GBS)**  
保菌率と児への伝播率
  - 妊婦保菌率 8.7～21.7%
  - 児への伝播率 1.7～16.0%
- **早発型GBS感染症(日齢0～6)**
  - 発症率は0.10(出生千対、日本)
  - **早発型GBS感染症の予防法**
    - 米国CDC<sup>1)</sup>(2002,2010) 妊娠35-37週
    - 日本産婦人科学会<sup>2)</sup>(2008,2011,2014, 2017) 妊娠35-37週
    - 厚生労働省<sup>3)</sup>(2009)妊娠24～35週
    - 全妊婦 **膣・肛門** GBSスクリーニング
    - 分娩時 抗菌薬予防投与(静脈注射, ABPC)

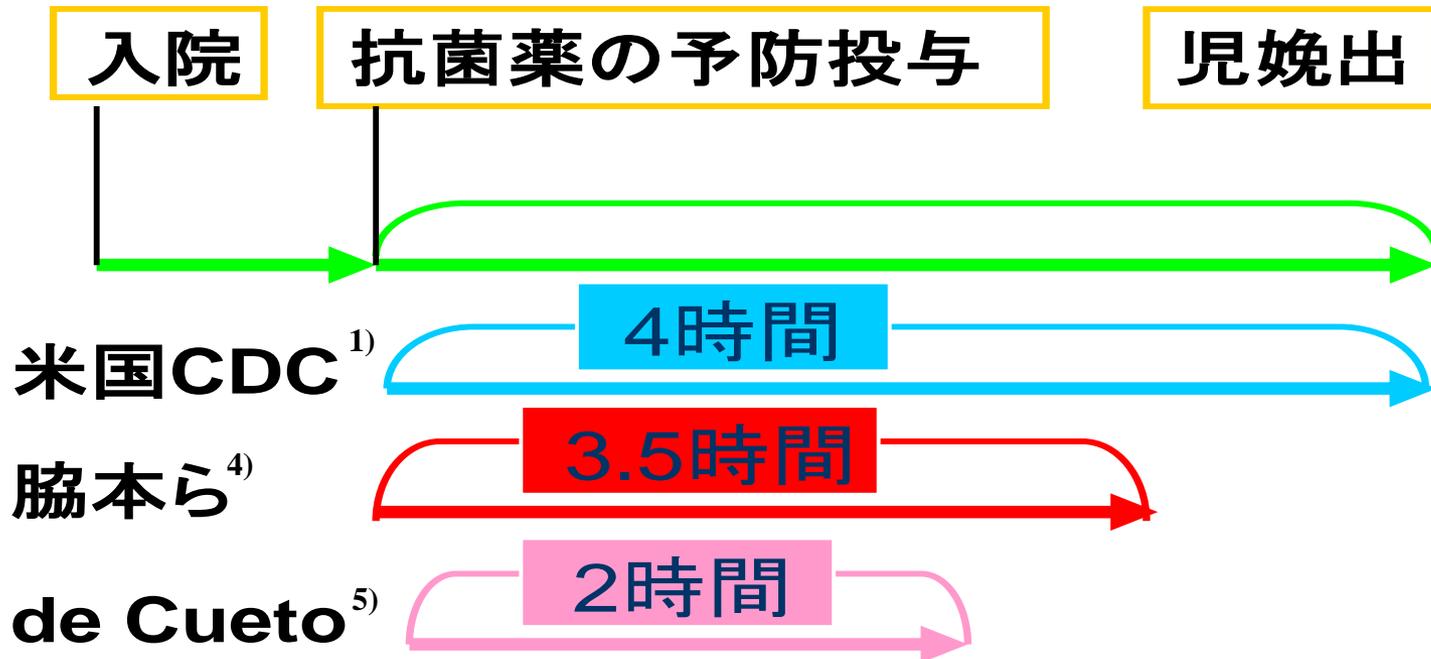
1) CDC:MMWR, 59(No.RR-10), 2010.

2) 日本産婦人科学会・日本産婦人科医会編:産婦人科診療ガイドライン:杏林舎, 314-4, 2017.

3) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長通知:妊婦健康診査の実施について  
(雇児母発第0227001号, 平成21年2月27日)

# 背景

## ➤ 分娩時の抗菌薬予防投与の時期(静脈注射)



4) 脇本寛子, 矢野久子他: *Group B Streptococcus* の垂直伝播予防, 感染症誌, 79, 549-555, 2005.  
5) deCueto M, et al: Timing of intrapartum ampicillin and prevention of vertical transmission of *Group B Streptococcus*, *Obstet Gynecol*, 91, 112-114, 1998.

# 背景

## ➤ 遅発型GBS感染症（日齢7～89）

- 発症率は0.1（出生千対、日本）
- 主な感染経路は、水平感染
- ワクチンは開発中で、予防法は確立されていない
- 母の乳腺炎との関連が指摘
- 髄膜炎を発症し、死亡や後遺症を残すのが約20%と**予後不良**
- 肺炎球菌やHibワクチンが定期接種になり、小児の細菌性髄膜炎における**GBS髄膜炎の割合が増加**
- GBS保菌妊産褥婦への保健指導の現状と課題は明らかでない

# 背景

## ➤ GBS保菌妊産褥婦へのケア

### ➤ 妊娠期

- GBSスクリーニングを行う。
- 分娩のための入院のタイミングについて保健指導を行う

### ➤ 分娩時

- GBS保菌妊婦に対して抗菌薬の予防投与を行う。
- 抗菌薬予防投与から児娩出まで3.5時間以上あればGBS伝播予防に寄与できる。

### ➤ 産褥期

- GBS感染症発症予防に有用な保健指導は、明らかでない。
- GBS保菌妊産褥婦へどのように保健指導が実施されているのか現状は、不詳である。

GBSを保菌している妊婦は、8.7～21.7%であり、  
GBS保菌妊産褥婦へのケアの現状と課題、強化すべき対策を  
明らかにし、GBS感染症予防に寄与することが重要と考えた。

# 目的

妊娠期，分娩期，産褥期において  
GBS保菌妊婦が疑問，不安，心配に  
思っていることを明らかにする。

# 対 象

- **平成28年10月～平成29年4月**
- **1施設(東海地区)**
- **妊娠36週以降のGBS保菌妊婦 10例**

# 方法

1. 研究デザイン 質的記述的研究
2. データ収集方法 半構成的面接調査を2回実施
  - ・妊娠期(1回目): 妊娠36週から分娩まで
  - ・産褥期(2回目): 2週間健診もしくは1か月健診
3. 面接内容
  - ・妊娠・分娩・産褥期に受けたGBSに関する説明・ケア
  - ・GBS保菌していることで気がかりに思っていること
  - ・妊娠・分娩・産褥期において気を付けたこと
  - ・助産師などに対する要望
  - ・母乳育児の状況
4. 情報収集
  - ・診療録から母子の属性, GBS保菌状況の情報を収集した.

# 方法

## 5. 分析

- ・研究協力者毎に逐語録を作成し、GBSを保菌していることにより疑問、不安、心配に思っている項目を抽出した。
- ・信頼性と妥当性を確保するために、母子感染予防、感染予防看護学、助産学、産科学、新生児科学の観点から研究者複数人で共通の見解が得られるまで検討と修正を繰り返した。

## 6. 倫理的配慮

- ・看護学部研究倫理委員会および研究協力施設の臨床研究審査委員会の承認を得て実施した。
- ・研究協力者に口頭および書面で研究の目的と方法、プライバシー保護等について説明し、署名により同意を得た。
- ・同意を得てICレコーダーに録音した。

# 結果

◎抗菌薬の予防投与や分娩時に関すること, 新生児に関すること, 妊婦自身に関することの3つの視点が抽出された.

○抗菌薬の予防投与や分娩時に関すること

「分娩時の**点滴時間**」 3名

「妊娠期の内服薬投与の必要性」 2名

「予防策は分娩時の点滴だけか」 1名

「抗菌薬は児や母乳に影響はないか」 1名

「点滴中は分娩に集中できないのではないか」 1名

○新生児に関すること

「**新生児GBS感染症の発症率や発症症状**」 3名

「**育児の中で感染予防のために気を付けること**」1名

○妊婦自身に関すること

「**保菌理由**」3名

「**次子の妊娠を考えた時の対策**」1名

# 結果

## ◎医療者に対する要望

- ・説明をいきなり言われても、よく分からなかった。説明の紙を渡されたが、詳しく説明する時間はないと思う。助産師さんからでも、具体的に詳しく説明してもらいたい。
- ・インターネットも間違った情報もあると思うので、医療者から説明があれば不安を覚えずに済んだかもしれない。
- ・母子手帳交付時、このような菌がありそれに対する対策も教えてもらえる機会があると良い。
- ・家で読める資料があれば良い。インターネットだと古い情報や間違った情報があるかもしれないので、病院の方針が書かれた資料があると良い。
- ・資料があれば、分からないことを次回の健診で質問する方法で良い。
- ・情報の冊子をもらい分からないことを質問する方法でよい。夫への説明に困ったので、夫と共に読めるものがよい。

## 考 察

- ・分娩時の点滴の投与時間，次の妊娠時の対策，**育児の中で感染予防のために気を付けること**などについて疑問，不安に思っていた。
- ・夫などと**情報共有できるパンフレット**などを用いて，今回明らかとなったGBS保菌妊婦が疑問，不安，心配に思っていることについて説明することが必要と考えられた。
- ・今後は，産褥期の結果と併せて，詳細に分析し，GBS感染症予防に寄与できるようなGBS保菌妊産褥婦への保健指導・ケアについて検討する予定である。